

金婚式は、外遊イヤー

15期 舟田節子

「えっ、もう来んの？」顔をみて3日目…最短記録更新といったところか？昨年は1か月で、次が5日目で、新職員は来なくなりました。そんな、職員が定着しない、認知症グループホームという職場で、5年目を迎えていました。

私の場合は、週3日のパートという「働く」があれらこそ（不満はいっぱいながら）、身体が動き、反動としての「遊びたい」心を保っていると言えます。そして、入所者達が反面教師となり、「こんな老後になる前に、やりたいことをやっておこう！」にもなります。おかげに、山は、クマが出てダニが出て、熱中症警戒アラートばかり…。

異常気象続きで、増える一方の災害ですが、防災グッズを揃えても、しょせん神頼み。ならば、その日まで後悔なく時間を使い、「いい人生だった」と言えるように…それしかやれないのではないか？



《トロミティー ガイスラー山群 2024.5.29》

以上、理由はどうにでも並びます。2025年の私は、有給休暇と振替勤務を利用し、ひたすら海外に飛び、その後は紀行作りに励んでいました。

タイトルは、たまたまそういう巡り合わせになった…だけです。そういえば、かつて、2000年も、「銀婚式」と勝手に騒いだような…。その弾みをつけて、初めての海外トレッキング・ネパールへ出かけたのでした。

どんな理由であれ、「出かけた者勝ち」。ありがたい思い出ばかりです。結局、ストレスを解消しては、元気を維持してこられました。

さて、恒例の機関誌の方では、以下を紹介しました。

11月号…吾妻連峰

12月号…猪臥山

1月号…ドロミーティ

2月号…エジプト

3月号…於茂登岳

4月号…角田山

5月号…英彦山

6月号…荒船山、浅間前掛山

7月号…後方羊蹄山

8月号…鳥海山・月山

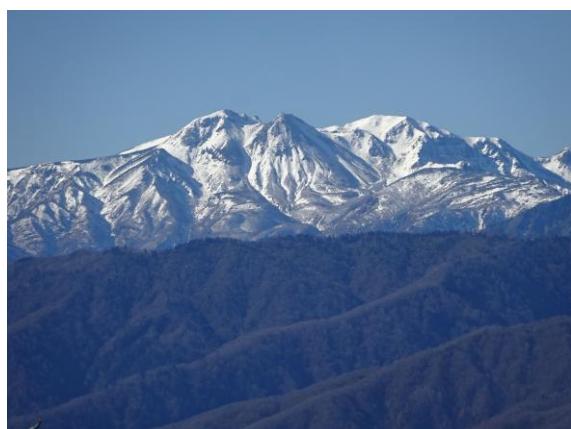
9月号…ランタン谷

10月号…五竜岳

「吾妻連峰」…『百名山』の金沢発ツアーで、吾妻山を狙った時には、天元台のロープウェイとリフトを使い、楽な反面、何でこの程度で百名山入り？の疑問が残ってしまいました。この時は、磐梯山との2山を1泊2日でこなすため、なお手っ取り早いコースだったのです。

それで久弥を魅了した吾妻連峰の魅力を知るべく、6年後には、一切経山～東大巔～弥兵衛平小屋泊～西吾妻山の縦走となる東京発ツアーに参加することになりました。

東北の秋の縦走…草紅葉、薄氷の池塘、光る裏磐梯の湖沼群、東北の名山の遠望もよかったです。団装を分けて持つ無人小屋泊は、ツアーでもやれるものです。



《猪臥山 白山の遠望 2019.11.23》

「猪臥山」…岐阜県高山市の展望の山です。現地では積雪期の展望の山としての人気があるそうですが、山頂直下まで、車道があるために、全国版山ガイド本には紹介されません。宇津江四十八滝が、東の山腹に

ある…という立地です。晩秋のロングドライブを決め込みました。2等三角点のある山頂は、冠雪の白山、御嶽、乗鞍などの北アルプスが広がる、360度の絶景でした。

「ドロミーティ」…お正月は海外の山を紹介。フラーハイキングの入っているものを物色し、トレーナー・ディ・ラヴァレード (=ドライ・チンネ 2999m) ハイキングを含む…を見つけられました。

ただし直行便のK社が成立せず、それからH社に申し込みしたら、キャンセル待ちばかりとなり、シリーズ第1回の5月下旬発で妥協。すると、3月に降雪という異常気象が尾を引き、3本のハイキング路はまだ雪に埋まっており代替コースばかりに。チロルへの峠越えも、吹雪の中を通過という目に遭いました。

ドロマイドで形成された山群は、広範囲に広がり、かつ、奇岩ぞろいです。冬期五輪の開催地になるコルティナ、神聖ローマ帝国初代のマクシミリアンにからむインスブルック、サウンドオブミュージックの舞台になったザルツブルグ。

風景とこれまでの知識がつながっていき、歳を重ねてこそこの旅の楽しみを知りました。



《王家の谷 ユル・クルン 2024.2.13》

「エジプト」…コロナでキャンセルになってしまった旅を、4年後、コロナ明け記念に実行。表紙に王家の谷のピラミッド状の山「ユル・クルン」を使ったくらいが、山がらみです。

大エジプト博物館の総工費の半分以上を円借款供与しているからか、TVでのエジプト関連番組は多数。その度、「行った！見てきた！」と楽しめる点、お得です。4500年前に砂漠で生まれた文明…それを見てから『クレオパトラ』の映画を見たら、細部が違つて見えまし

た。百聞一見に如かず…は、この手の巨大古代遺跡にこそ、該当します。

「於茂登岳」…以前から、「各県の最高峰に登る」というジャンルがあり、沖縄県最高峰として、石垣島の於茂登岳だけは以前から知られていました。

「しま山」シリーズとして、他に『星の砂』のモデルの野底岳、与那国島の宇良部岳も。ツアー様様です。

与那国ではDr.コトーのロケ地、増築された駐屯地、近い台湾に、震撼。天気予報で思わずチェックする島が、また増えました。

「角田山」…ここを知った時、行き慣れた能登の猿山に比べて、雪割草の色数の多さ、株の多さに驚きました。でも、4時間の長いドライブが難。

それが10年後にツアー利用で行き、頂上の花壇に数株だけになった激減ぶりに、もっと驚きました。山野草ブームでの盗掘のせいです。そのうえに、毎年の花見登山のスタートだった猿山も、能登半島地震で行けなくなりました。

当たり前だった自然が当たり前ではなくなる…をここででも思い知りました。



《英彦山 ヒコサンヒメシャラ 2023.5.29》

「英彦山」…ようやく成立してくれた、普賢岳と英彦山のツアーで行けました。多色のミヤマキリシマで普賢岳山頂が埋まり、英彦山三名花のオオヤマレンゲ、ヒコサンヒメシャラ、ベニドウダンもちょうど開花の時期でした。

南北に長い日本…その土地ならではの植生が見られるのは、楽しみです。ホットスポットならではのありがたさです。

地元活動ガイドを雇ったお蔭で、英彦山は閉鎖中の

上部参道を使う配慮をしてもらいました。南岳へ回り込むコースだと時間がかかり、鎖場もあるしと、遠方からの中高年を気遣ってくださったのでしょう。この頃、丁度、田中陽希の「英彦山修験の道 峰入り古道」が放映されましたが、雰囲気が判り、それがまた、嬉しかったです。

「荒船山、浅間前掛山」…岩山は秋と思い込んでおり、荒船山は先に旦那と遠征登山に来た山。それが6月だと、山頂に、クリンソウの群生があり、この時期の魅力になっています。平らな山頂部に湿地が広がる…は、紅葉時期には気付かなかったことでした。

浅間山の代替がずっと黒斑山とされていた時代に、警戒レベルが下がり浅間前掛山がOKになった時はすぐ登りにきていました。

でも、荒船山とセットになった、12年後の2回目は、すっかり落ちこぼれ側になっていました。「登山中級」であっても、ツアーペースで登るのは無理かも…を思った山。

(たぶん、部活育ちの方が、最近のツアーの最初から飛ばすペースには馴染めないと思います。落ちこぼれの弁かも…。近年は、ジムで鍛えているのが当たり前なのです。)



《浅間前掛山 シェルターのある山頂部 2022.6.19》

「後方羊蹄山」…登りが5時間強の日帰りの山ゆえ、2度目、3度目のチャレンジが多い山に、1度目で登れました。

初日に、ニセコアンヌプリから眺め、2日目が後方羊蹄山、3日目が余市岳に登ってから帰京…といった、予習・本番・復習を、ツアーならこそその効率のよさ！と思つた山でした。

深田久弥は、「ようていざん」の読みには異議を唱えています。日本書紀（659年）にすでに「しりべし」

と記されていること。「後方」を「しりへ」（後ろ）、「ようつい」を「し」と読ませたもので、これは牧野富太郎の植物隨筆によれば、「羊蹄」とは「ぎしぎし」という草の漢名であって、日本では昔「ぎしぎし」のことを単に「し」と呼んだ。それで…と、たっぷり紙面を割いています。

百名山は久弥が思い入れ深く、名山と推奨し、その理由を解説している山々。日本山岳会が人気投票を参考に選定した三百名山、深田クラブが選定した二百名山との違いを、こんな箇所で感じます。まさに「読み歩き、書いた」（墓標の脇字）人生だったのです。

15年後、弘前城、五稜郭の花見尽くしツアーで近くを通った時には、中国に蚕食されたニセコが話題になっていました。

「鳥海山・月山」…夜行1泊2日ツアード登った山を、4年後に、2泊3日マイカー利用で再登頂。遠方ゆえ、縦走しないともったいないとは思うものの、下山先からマイカーへ戻るための2回のタクシーはやはり高かったです。あらためて、ツアーリユースの方が、時間も費用も無駄がなく、特に帰路が安心です。

どちらも、信仰での白装束登山者が多い山です。

多雪地帯ゆえ、白山と同じ植生でした。高山植物の多い白山が近くにあるのは、ますますありがたいことに思えました。



《千蛇谷雪渓と鳥海山の新山 2013.8.15》

「ランタン谷」…ネパールの夏を紹介と、18年前のをひっぱりだしました。まだ、ポジフィルムをスキャンして取り込むまでだった頃…長岡先輩主導のOB海外PWでした。モンスーンのさなか、麓に行つてもランタンリルン7225mなどが垂れこめた雲で見えず。

雨とヒル三昧だった旅は、素顔といえるネパールを

見られ、それはそれで貴重な旅でした。厚いヒマラヤの花写真集を見ても、当然に背景は曇天です。

ここには、「ティルマンが、世界で最も美しい谷の一つ」と称した…との説明がつきます。それはいいとして、ティルマンって誰? この機会に検索し、英國生まれで、戦前のエベレスト登山隊長を務め、ナンダ・デヴィの初登頂者。高所登山の後は探検航海で活躍し、「高い山 はるかな海」などの著作も多かった方…と知ります。山を辞めた後は、海への冒険になったのか…に、自分の関心の変化に気づきました。

「五竜岳・唐松岳」…マイカーで、1泊2日でやれる縦走。後立は近くで、縦走がやれて、嬉しい山域です。百名山に入っている山は、特に、久弥の本を読み返し、紹介文章内に引用もします。しばしば、意味は予想できるけれど、読めない形容詞や副詞が登場し、分厚い漢和辞典を調べることになります。全てを「やばい」で済ませてしまう現在が、豊かになり高尚になったとは到底思えません。

秋に縦走したのは16年前ですが、今より空気は澄んでいて、紅葉も鮮やかでした。



《牛首から振り返り見た五竜岳 2009.10.4》

ドローン映像が見られるようになり、「5分で百名山」や「15分で百名山」が、地デジでも、BSでも、プレミアム4Kでも見られるようになりました。そのたび、懐かしく、楽しめます。私は昔も、花の写真を多く撮っていた方です。今見返してみると、そこにその時咲いてくれた花は、命のシンクロをしてくれていたように思えます。

悲惨なニュースを見るたび、ますます「行けるうちに」を思った金婚式イヤーは、

2/12～19 アメリカ大自然紀行

5/29～6/4 武陵源と天門山・鳳凰古城

6/27～7/5 スイスフラワーハイキング

9/13～18 パース ウィルドフラワーめぐり

10/15～19 九塞溝・黃龍・成都

という具合でした。

アメリカ後には、友人達が発病し、「一人参加でも行く」となりました。スイスでは昨年の異常気象で、ツエルマットが浸水し、氷河特急やゴルナーグラード鉄道が運休していたことを知ります。ドロミティーでの無念が残っていた私は、「アルプスが不遇だった年の片鱗を味わっていたのだ」…と思い直しました。



《スイス キジムシロの仲間とマッターホルン 2025.7.1》

65歳以上が、29.4%を占め、75歳以上が、2000万人を超えた時代…100歳も、来年には10万人を越えることでしょう。

外遊者は元気かといえば、みなさんのテーブルの上には、薬とサプリメントが積みあがっています。飲んで維持する元気…のおまじないでもあるようです。

「低山」「しま山」の次には、「フラット登山」の言葉が出てきて、それが、富士山5合目から下っていくものだったのには唖然。「敗退」を「転進」と言い換えた時代が思い浮かびました。もう少し潔く、冷静でいたいです。無事故を幸いとして…の一線を引いていかねば!と思います。

山どころか、元気な日常で十分と、年々、目標は妥当に下がっていきます。

というわけで、明日も、年齢差が縮まっていく職場へ向かいます。ハイホー!